

おかあさんのおりようり

神村学園初等部 一ねん

さとう つばさ

「ああ。またなすびがでてきた。」
わたしのおかあさんは、いつもやすみのひのおひるごはんに、なすびをだしてきます。ゆっくりできて、たのしいおやすみのひなのに、なすびがでてくると、ざんねんなきもちになります。きょうもまた、そうめんうえに、わたしのだいきらいななすびがのつていました。なすびはあじがいやです。くちのなかに、いつまでもにがいののがこります。あと、どろっとしています。もうさいあくです。おかあさんは、わたしがなすびをにがてなのをしっているのに、いれてきます。しかも、なすびだけじゃなくて、わたしのにがてなのをしっているのに、いれてきます。そこで、おかあさんにきいてみることにしました。

「どうして、わたしのきらいなおやさい、いれるの。」
すると、おかあさんは、

「つばさとおとうさんが、げんきよくすべししてほしいからだよ。」
といいました。なんだかこころがぽかぽかしました。おかあさんのことばはうれしかったけど、それをきいても わたしは、「やっばりおやさいきらいだな」とおもいました。

でも、おもいだしたのです。おかあさんの「はるさめのすのもの」は、とつてもおいしいです。せかい一、おいしいです。だから、おかあさんにまたきいてみました。
「どうして、おかあさんのおりようりはおいしいの。」
すると、おかあさんは、

「おばあちゃんが、おかあさんにおいしいごはんをたくさんつくってくれたから、おかあさんも、こどもがうまれたら、おなじように、おいしいごはんをつくらせてあげたいとおもったんだよ。」

とおしえてくれました。わたしは、もつともつとうれしくなりました。おかあさんは、わたしやおとうさんのために、いっしょうけんめいおりようりをつくってくれていました。こころがいっばいまったおりようりは、とてもおいしいんだとおもいました。それに、おばあちゃんみために、おいしくつくろうと、がんばってくれています。なんだか、おいしいのレレーをしているみたいで、もつともつとつとこころがぽかぽかになりました。

それでもやっぱり、なすびはきらいです。でも、おかあさんがいったように、げんきにすごせるように、がんばってたべたいとおもいます。このなつやすみに、ちよびつとずつ、たべていこうとおもいます。